

No. 3 文献を探す～CiNiiの利用

小学校高学年や中学校でも自由研究・課題研究を行うが、とくに高校では課題研究や卒業研究として、テーマを設定させ文献を検索・収集させ、レポート・論文を書かせて発表会を実施する学校が増えている。高校では、文献検索に「CiNii」や「Google Scholar」などを利用させることもできる。

1. 文献の種類

レポートや論文は感想文とは異なる。自分の感想だけを書くのではない。自分の考えを書いたとしても、自分の思いのままでは随筆である。レポートや論文は自分の考えを客観的に示さなければならない。客観的というのは、他の人の考えと比較して自分の考えの正しさを示したり、自分の考えの根拠となる考え方や思想、論述を他の人の著作のなかに見つけて示したりすることである。

そのためには、誰がどのような考えを発表しているのかを知らなければならない。文献には、次のような種類がある。

図書及び図書の一部、雑誌記事・論文、新聞記事、Webサイト・ページ

2. CiNii の利用(<https://ci.nii.ac.jp/>)

「CiNii」(サイニィ)は、国立情報学研究所が提供しているデータベース・サービスで、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できる。

例えば、論文を検索する CiNii Articles^{*}で、「学校図書館 情報活用能力」という2つのキーワードで検索すると、2021年10月29日現在ではヒットした87件の文献がリスト表示される。その中から2例を紹介する。^{*}2022年4月以降は CiNii Research に統合予定

 **小規模校における児童の情報活用能力を育成する学校図書館活用授業の在り方 (特集 新年度の運営に生かそう学校図書館ガイドライン)**

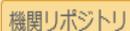
湊由香

学校図書館 (833), 36-39, 2020-03

 **司書・司書教諭が知っておくべき学校図書館のための情報リテラシー 最終回 学校図書館だからできること**

後藤敏行

図書館教育ニュース (1523付録), 2-3, 2020-02-28

 機関リポジトリ

2つとも1行目が論文・記事のタイトルである。2行目は著者。3行目は掲載されている雑誌名と巻号、ページ数、発行日。1つ目の記事は、「学校図書館」という雑誌の833号のp.36-39に掲載されており、それは2020年3月に発行されたものである。

2つ目のものには4行目に「機関リポジトリ」とあるが、「機関リポジトリ」とは、学術機関が当該機関内の研究者の研究成果を蓄積して公表する電子アーカイブ・システム(データベース)で、ここをクリックすると、そのアーカイブに飛ぶことができ、その論文(テキスト)をダウンロードできる。「機関リポジトリ」などが示されていない場合は、掲載誌を図書館等で探してコピーする。

3. Google Scholar の利用(<https://scholar.google.co.jp/>)

Google Scholar(グーグル・スカラー)は、Googleの提供する学術用途の検索サービスで、論文、学術誌、出版物の全文やメタデータ(書誌データなど)にアクセスできる。これを高校生に利用させている学校もある。